

## 当院での在宅血液透析（HHD）普及に向けての取り組み

### ～全職員で取り組むことの重要性

長崎腎病院

佐藤 泰崇、田賀農 恵、植木 秀一、羽田 鮎子、中山 美季、林田 征俊、  
矢野 利幸、高木 伴幸、澤瀬健次、船越 哲

#### 【背景】

我が国の HHD 患者数は、2014 年末において 529 名であり、同じ在宅医療である腹膜透析患者数と比し、未だ普及しているとは言えない。当院では、2008 年より HHD を開始したが、長らく 1 症例のみであった。QOL や、生命予後の観点から、最も望ましい腎代替医療のひとつといわれる HHD を、より多くの透析患者が享受出来るようにという思いから、HHD 患者数普及に向けての取り組みを行った。

#### 【目的】

当院での HHD 患者数を増加させる。

#### 【方法】

患者へ HHD という存在やその優位性について広く認知してもらう活動だけでは不十分であり、透析治療に直接従事する如何に関わらず、すべての職員への啓発活動こそ重要と考えた。そこで、当法人の年間目標として『HHD の啓発と推進』をスローガンとし、全部署で HHD 推進に取り組んだ。

#### 【結果】

一連の取り組みにより、HHD 施行患者数は 2015 年初頭に 2 名であったものが、2016 年現在 7 名へと増加した。

#### 【考察】

HHD 普及の障壁については自己穿刺や物品の配送等の問題に目が向きがちであるが、病院すべての職員が同じ方向を向き、HHD への造詣を深めることこそが HHD 普及に向けての重要な要素であると思われる。